

[シラス]

1. 経年経過及び平成20年1～2月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14, 15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成19年は2,470トンとなりました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年以降は増加傾向を示し、平成19年は2,374トンと好調に推移しました。

今期の西薩海域ではカタクチシラス主体に133.9トンの水揚げで、前年の758%、平年の567%と前年・平年を大きく上回り、好調に推移しました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に27.3トンの水揚げで、前年の36%、平年の96%と前年を大きく下回り平年並みとなりました。

2. 平成20年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域では前年・平年を上回るでしょう。志布志湾海域では好調だった前年を下回り、平年並みとなるでしょう。

(根拠)

西薩海域ではカタクチイワシ親魚の来遊が好調に推移していること、本年3月の卵稚仔調査結果でカタクチイワシ卵の分布が多い水準であったことなどから前年、平年を上回ると考えられます。志布志湾海域では太平洋側近隣県のカタクチイワシ親魚の来遊が比較的低調に推移していることから前年を下回り、平年並みとなると考えられます。

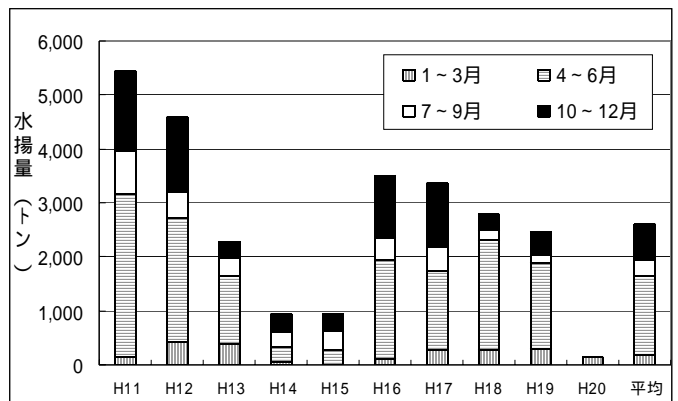
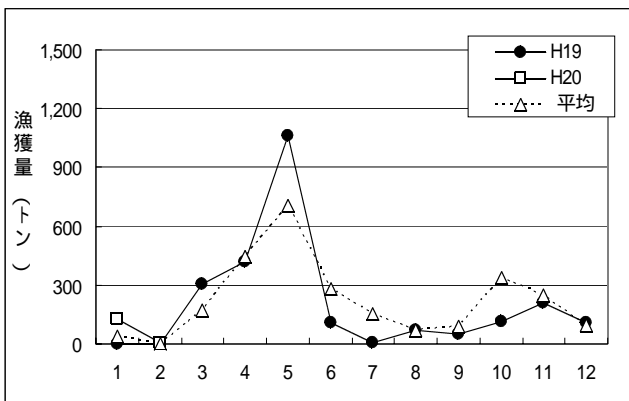


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平成20年2月未までの水揚げ量を使用。

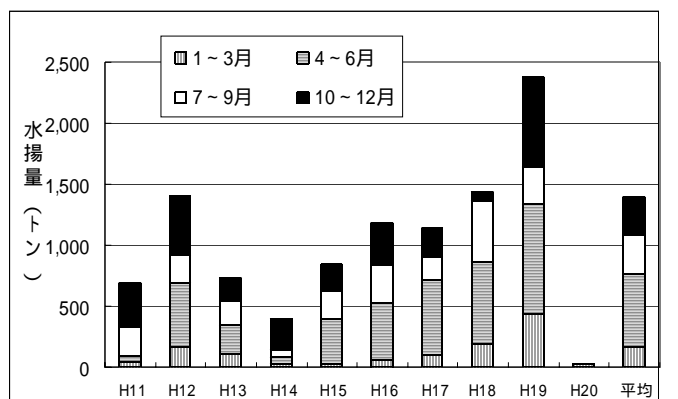
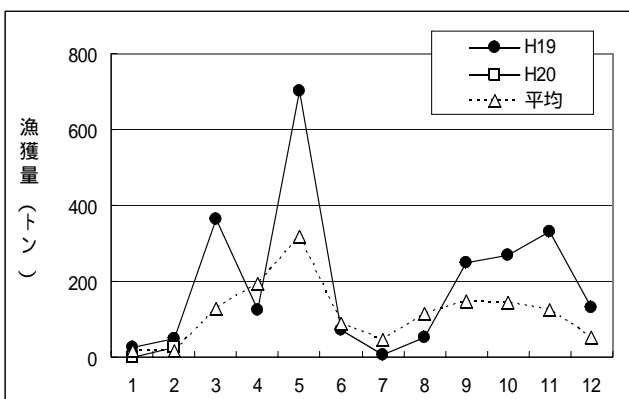


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平成20年2月未までの水揚げ量を使用。